

ディスプレイの眼

ディスプレイ憲章

ディスプレイは
主題を空間に演出する伝達技術である
われわれは
企業間の相互理解に立ち
業界全体の繁栄をはかると共に
創造に徹し
技術を磨き
ディスプレイを通じて
社会に貢献する

CONTENTS

ディスプレイの眼 ドイツ人の心の余裕	・ ・ 1
第 50 回通常総会開催	・ ・ 2
暑中見舞い名刺広告	・ ・ 4
安全委員会活動報告	・ ・ 7
Next HERO わが社の新人紹介	・ ・ 8
東京デザイン巡り 東京国際空港編	・ ・ 10
第 44 回親善野球大会	・ ・ 12
ディスプレイ塾 本所防災館 防災体験視察 高齢者雇用安定法と 労働契約の改正	・ ・ 14 ・ ・ 15
「ディスプレイ東京」 表紙デザイン大募集	・ ・ 16
新規加入組合員紹介	・ ・ 16
ロゴマークコンテスト	・ ・ 17
青年懇話会 会員交流を深める為の チームビルディング研修	・ ・ 18
編集後記	・ ・ 19

ドイツ人の心の余裕

先日6月18日より弊社の提携している会社のお誘いでドイツベルリンで行われた Show Tech 2013 という舞台、イベント、ショーに関する展示会を視察にいつてまいりました。

展示ホールを4館使用するほど出展社が多く、照明・電動装置・ホールの昇降システム・カメラ・舞台幕・舞台用ペンキなど扱い品目も多岐にわたっていました。

細かい内容については、ともかくですが、展示会自体が組織化されているのに関心しました。展示会に入るために指定のパスを購入するとバーコードでチェックして入場、どの商談ブースでもお客様に自前のお茶をだすように簡単なバーをつくり、資料を渡す際はそれぞれの会社のロゴ入りのカバンにいれてくれるサービスです。

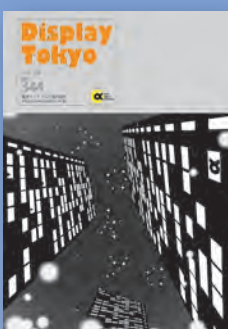
最終日に出展者だけの食事があり、私も参加させていただきましたが、日本では名刺を配り挨拶をしたりとても忙しい中食事をするという感じですが、ドイツの方達は食事をしっかりとってからお互いに談笑しながらコミュニケーションをとっていました。あまりのほのぼのの感に何が日本と違うのかなど考えると仕事に追われている感がないのです。開放感、余裕があるのです。

ドイツというと先進国ですが、話を聞くと仕事は常に時間通りで、展示会も18時終了という18時すぎには出展社、開催者が着替えて帰途についていく光景を眼にしました。あまりに時間きっちりなのは呆然としました。

しかし、翌朝10時から何事もなく展示会は始まります。前の日に準備ができているから時間きっちり始まるのです。どの展示ブースでもおもてなしは丁寧です。

これもドイツのお国柄なのでしょうが、同じ分野の業者として技術だけでなく人に対応する内容も先進国だと感じました。常に仕事に時間に追われ、余裕もなく仕事に追われている自分が恥ずかしくなりました。忙しくても自分を見つめる時間を持つこと、作ること、それが新たな考えを生むことになるのではないのでしょうか？

広報副委員長 中野 肇 / (株)東広



表紙デザイン
荒木秀暢 / 株式会社フジヤ

東京だからこそ見える景色。
東京の空は星が見えないと聞いていましたが、終電を逃し真夜中に歩いていたらビルのスキ間から、わずかながらキレイな星が見えました。
ディスプレイデザインとはそんな日常のささいな、景色なのかもしれないという思いを込めてデザインしました。